

施策に対する市民満足度・重要度の推移

1. 分析の概要

○基本構想に記載の「目指すべき将来像」の実現のための施策推進の基礎資料とするために毎年実施されている、「長浜市民満足度調査」の直近の調査結果より、長浜市基本構想における 11 の施策の大綱及び基本 57 施策に対する満足度・重要度等の経年変化を比較し、施策に対する市民意識の推移を明らかとした。

表 1-1 調査の概要

	H26	H27
調査期間	平成 26 年 7 月 12 日～7 月 28 日	平成 27 年 7 月 9 日～7 月 23 日
調査対象者	各年 6 月 1 日時点で住民登録されている 18 歳以上 80 歳未満の長浜市民	
対象者の抽出方法	住民基本台帳から各地域の人口の割合に応じて無作為抽出	
調査方法	郵送によるアンケートの配布、回収	
回収件数	1,734 / 5,000 (回収率 34.7%)	1,864 / 5,000 (回収率 37.3%)

2. 分野別の満足度・重要度の推移

○全体的には満足度の上昇・重要度の下降の傾向が見られ、改善から維持へ意識が変化しつつある。

○(6)子どもが元気で、子育て安心のまちづくり、や、(9)地域の魅力を高めるまちづくり、などで重要度の評価が上昇している。

○引き続き改善が必要な分野としては、(2)お互いを認め合い、すべての人がいきいきと輝くまちづくり、(8)地球に優しいまちづくり、(10)たくましい経済基盤をつくるまちづくり、(11)住み良さを高めるまちづくり、等となっている。

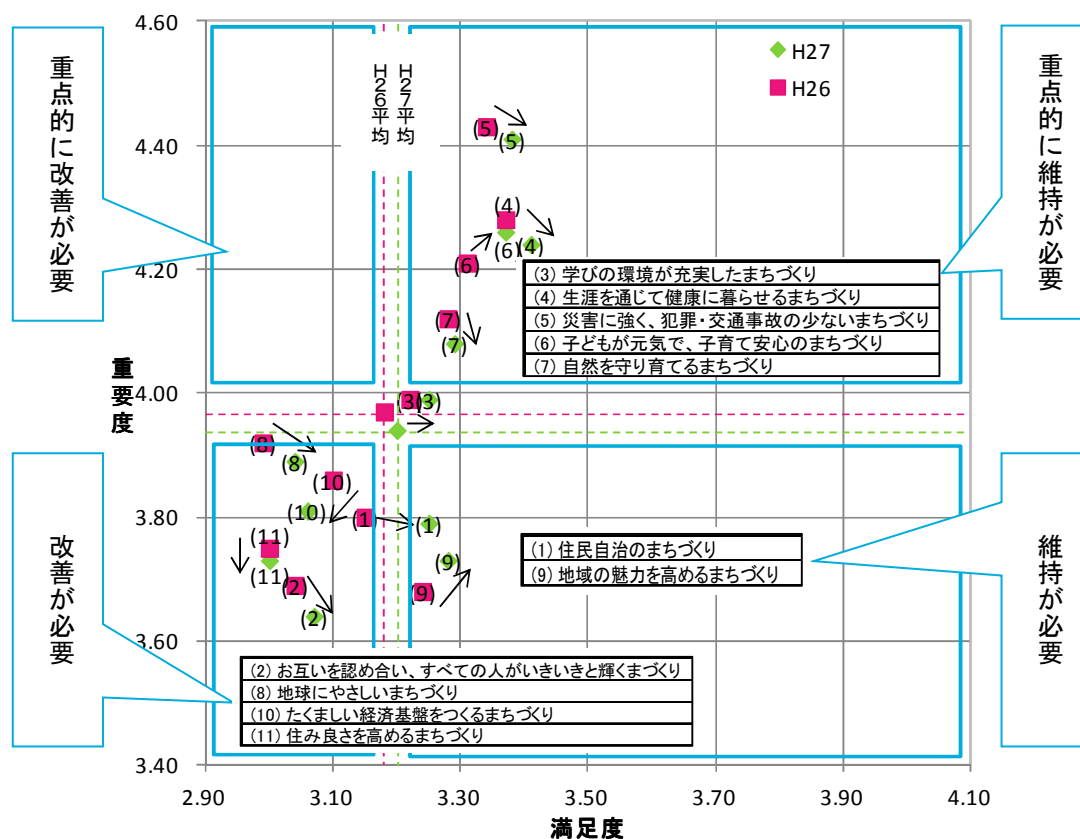
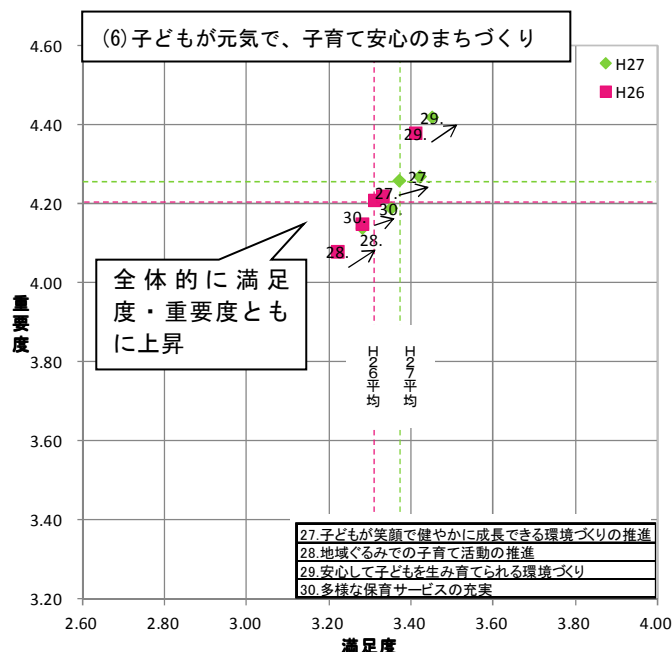
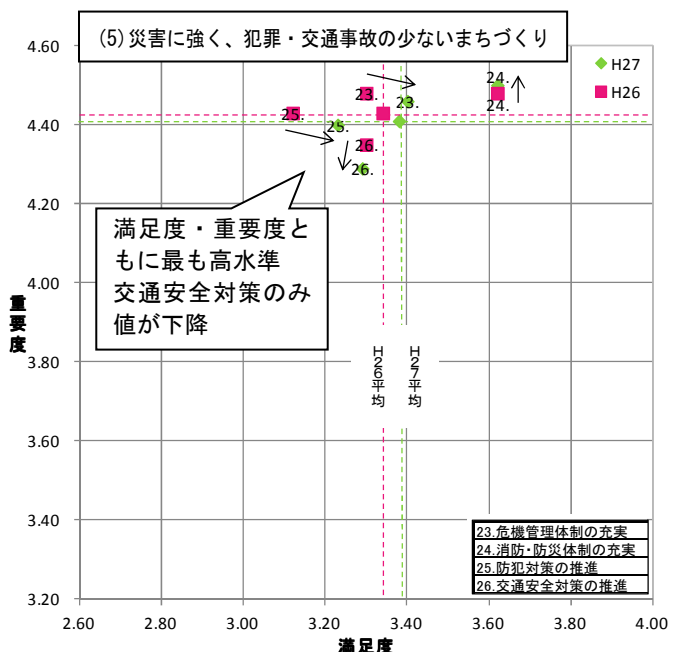
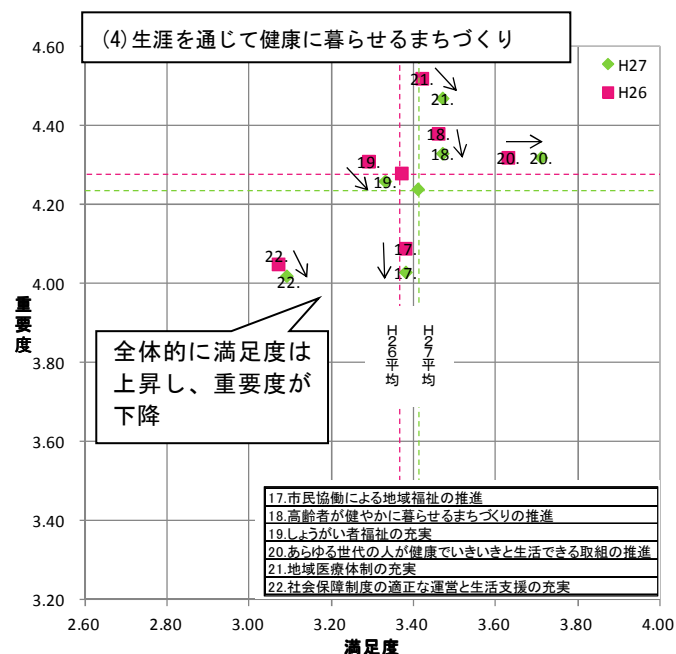
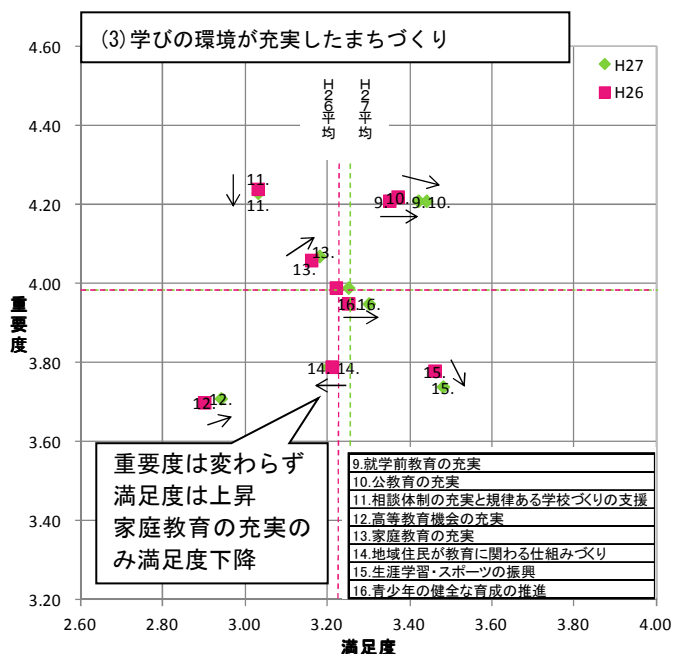
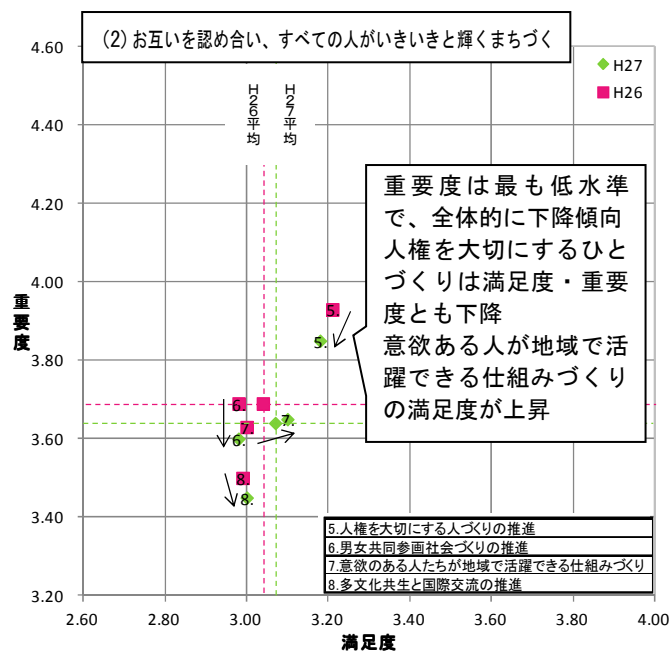
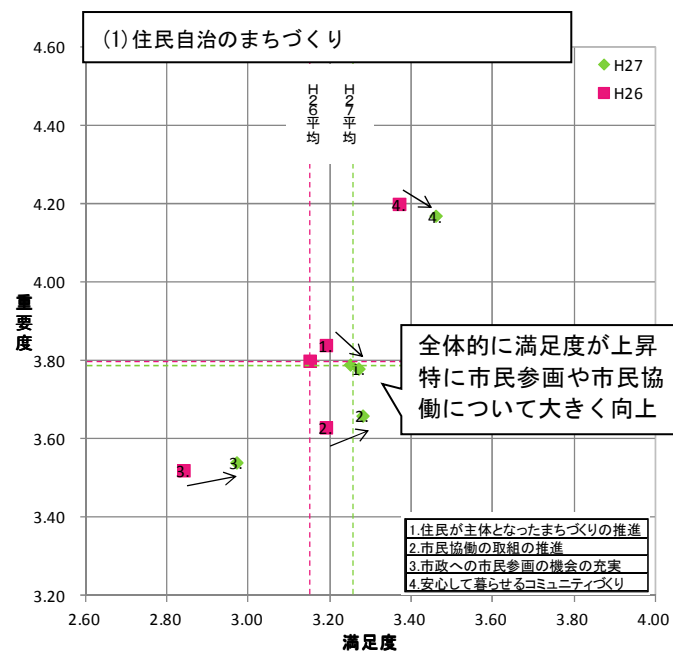
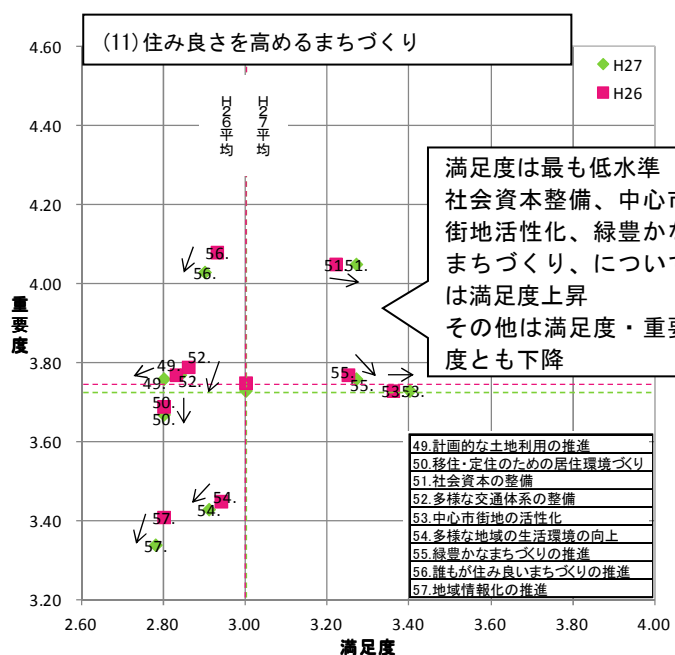
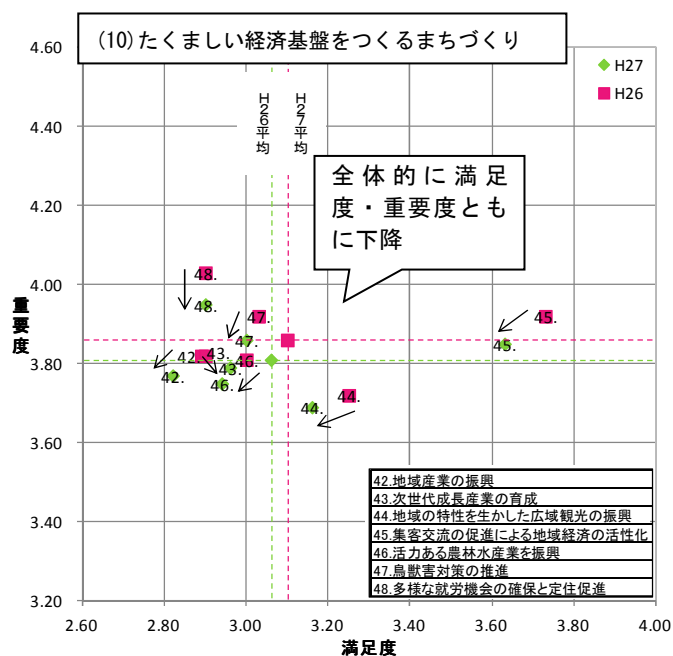
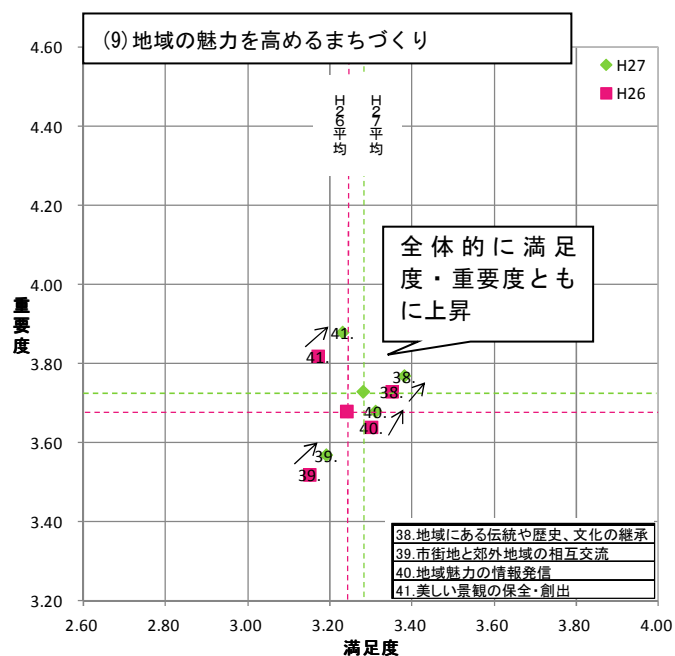
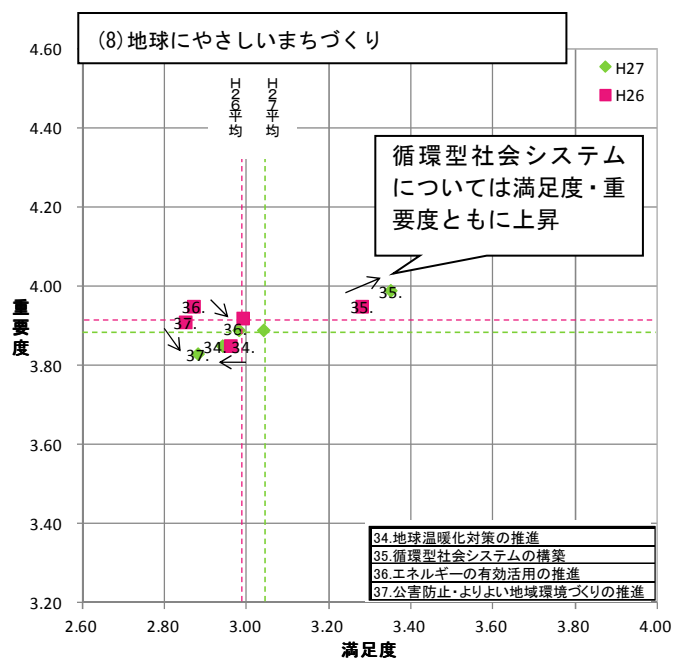
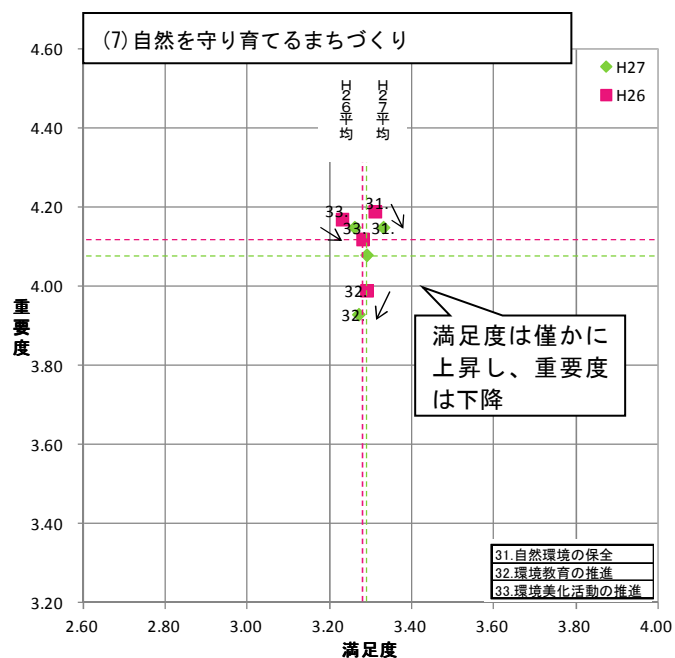


図 2-1 分野別の満足度・重要度の推移

3. (参考) 施策別の満足度・重要度の推移





4. 長浜市の住み心地について

○H27 調査では、「とてもよいと思う」が 11.37%、「よいと思う」が 75.34%で、約 86.7%の市民が「よい」と思っている。しかしながら、「とても悪いと思う」及び「悪いと思う」を合わせた値は 11.92%から 13.28%へと増加しており、住み心地が良くないと感じる市民の数が増加している。

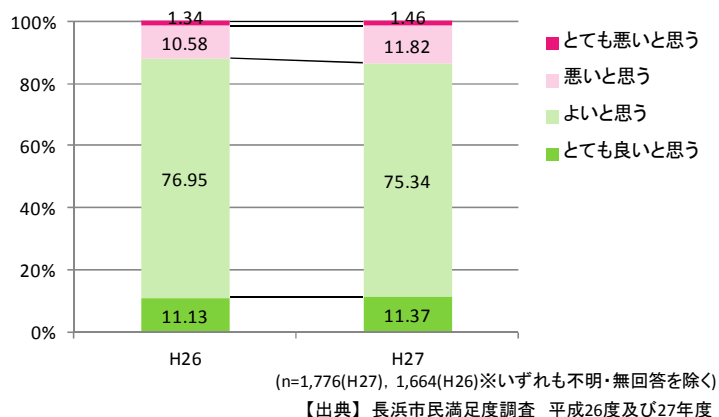


図 4-1 長浜市の住み心地

5. 住み心地の良さにつながること（3つまでの複数回答）

○「災害に強く、犯罪・交通事故の少ないまち」、「子どもが元気で、安心して育てられる環境」、「生涯を通じて健康に暮らせる生活」、「快適な居住環境」、「豊かな自然環境」と続いている。

○「快適な居住環境」や、「地域への愛着と郷土を誇りに思う心」、「お互いを認め、尊重し、市民の誰もが夢をもっていきいきと活躍できる環境」等の「愛や夢が必要」といった割合が増加している。

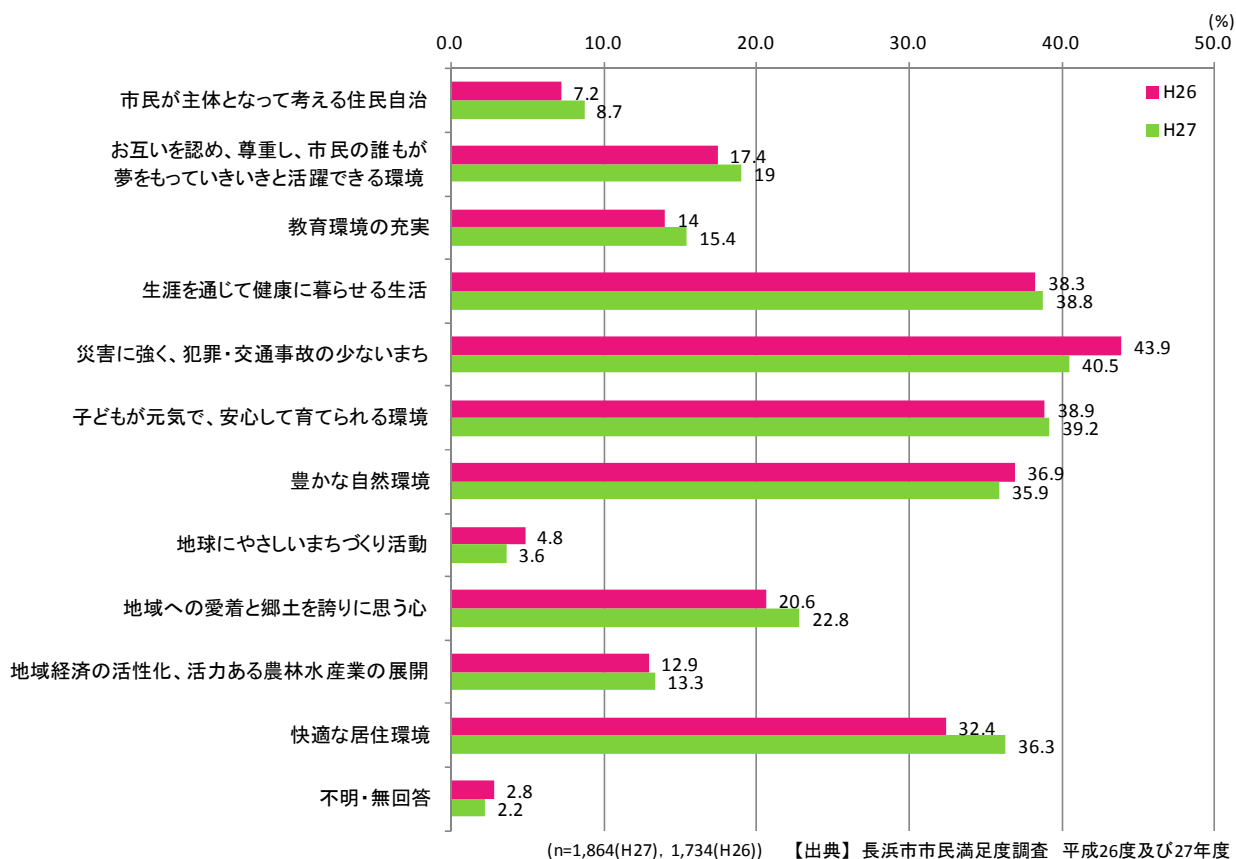


図 5-1 長浜市の住み心地の良さにつながること

6. 長浜市に住み続けたい理由と転居したい理由（3つまでの複数回答）（平成27年度調査）

■長浜市に住み続けたい・どちらかといえば住み続けたいと答えられた方（n=1,524）の回答

- ・「家や土地を持っているから」が78.3%、「住み慣れて愛着があるから」が66.4%で、この2つが大きな理由になっている。
- ・18～29歳では「住み慣れて愛着があるから」がもっとも大きな理由になっているが、その他の年齢層や地域別では全ての地域で、「家や土地を持っているから」がもっとも大きな理由になっている。

■県内の他市町に転居したい・県外に転居したいと答えられた方（n=139）の回答

- ・「交通の便が悪いから」（51.8%）、「風習やしきたりなど、土地柄になじめないから」（50.4%）、「買い物や飲食など、日常生活が不便だから」（43.9%）の3つが大きな理由になっている。
- ・もっとも大きな理由は年齢や地域によって異なっており、女性や中高年層では「土地柄」がもっとも大きな理由になっている。子育て世代である30～34歳は「子育て環境」、35～39歳では「教育環境」がもっとも大きな理由になっている。

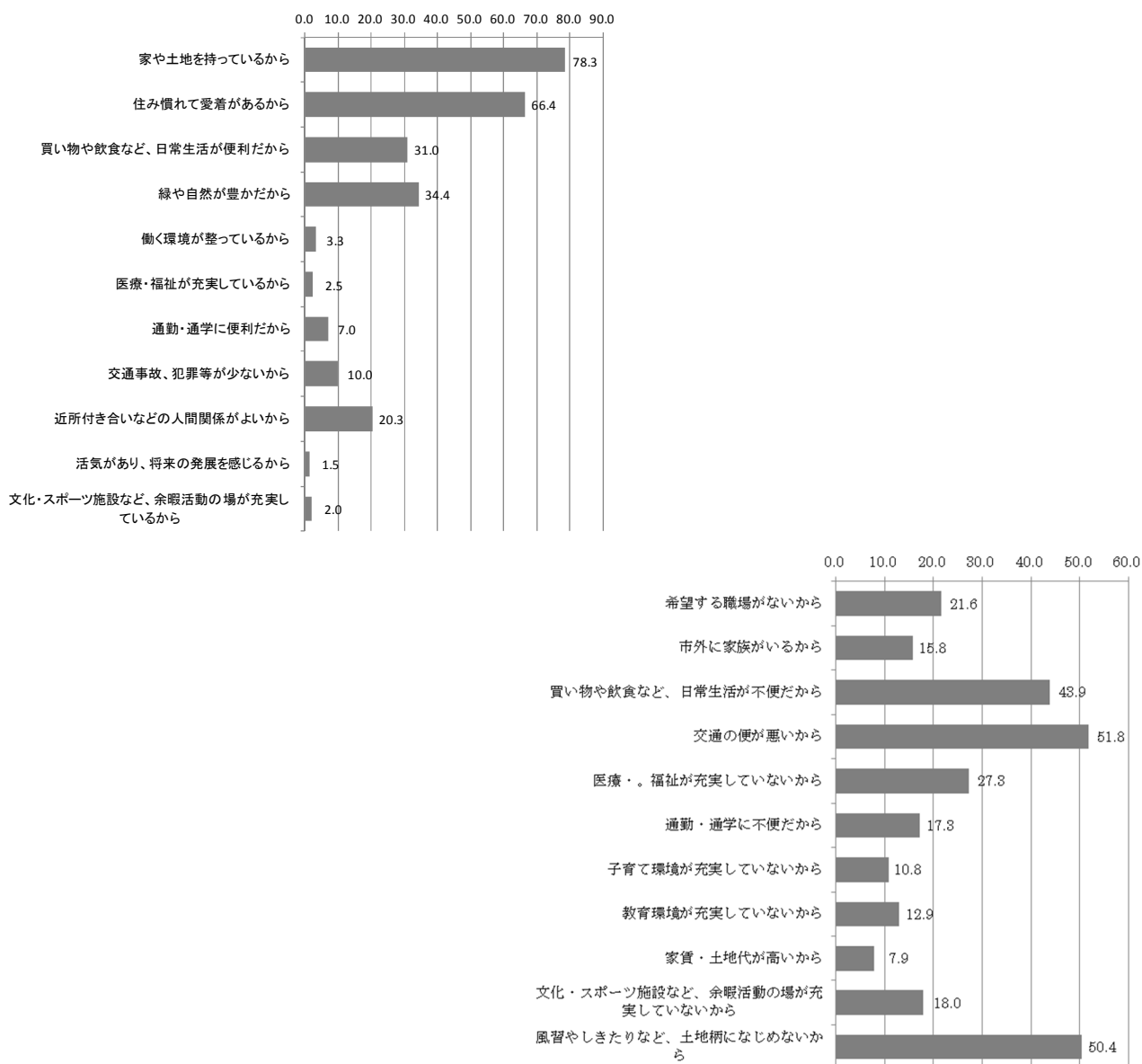


図 6-1 長浜市に住み続けたい理由（上）と転居したい理由（下）